

平成 29 年度在宅医療に関する実践研修会(ワールドカフェ形式)

日時：平成 29 年 9 月 14 日(木)19 時～

会場：福井県医師会館 1 階 小ホール

研修会テーマ

「在宅診療における時間調整の工夫」

- ・参加者の研修会での気づき、新たな発見、自分が大切だと思ったことなどをグループごとに記載する。

A	<ul style="list-style-type: none">・ 調子が悪いときは午前中に連絡をすることが大事。・ 医師のご苦労や努力されていることがとても分かった。訪問看護師を上手く使っていたらいいと思う。・ ポイントは多職種連携・ 自院のスタッフも同行して在宅のスキルアップも肝要・ 小まめに連絡を取り合うことがコツ。・ 在宅協力医が、上手く可動するようにしていくこと。・ 多職種とも急変時は患者に対し対応出来ているし、努力していること。
B	<ul style="list-style-type: none">・ 医師とともに、利用者に寄り添うことが大事。・ 訪問看護師のすごさ。・ 電子カルテの必要性・ 看取り時にはサポート医を持つことで大事。・ スケジュール管理が重要。・ 訪問看護と連携を持つこと。・ 看取りの面白さ。・ 医師の時間調整は同じチームでかばいあいがある。・ 患者家族との話し合いが重要。・ 時間配分は、臨機応変に対応していくしかないと思う。ただ、訪問医療に不可欠、キーとなるのは訪問看護師であり、そのスキルに依存しているところもある。
C	<ul style="list-style-type: none">・ 訪問看護Sの利用の仕方。細かな様々な点が参考になった。・ 小さなグループを作って持ちつ持たれつの関係性を作り、お互いに支え合うシステムが必要と思われる。・ コミュニティーが小さいとやりやすい。・ PCのカレンダーで全職員がスケジュールを共有する。・ 訪問看護との連携は大事・ スケジュールをうまく立てること。それは看護師が一番いい。・ 患者や家族への十分な説明があれば、看取りも含めて時間調整は可能。・ 訪問診療のスケジュールに調整は自院スタッフに頼むがベスト。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人診療をされている医師のサポートに看護師がなると一番良い。 ・ ファーストコールは訪問看護師でよいと思う。 ・ 看護師と上手く連携し、スケジュール管理、多職種連携をすること。 ・ 連携はメール等だけでは難しく、いつでも連絡が取れる関係を築き、やはり口から口への関係が一番。 ・ 医師が訪問看護師を勧めてくれていることが分かった。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師との情報共有 ・ 患者家族との信頼関係 ・ 看護師との連携 ・ 地域性で色々大変なことがあることを実感した。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間調整は看護師にお願いする。医師はそれにとことん従う。 ・ 臨機応変と訪問看護と協力 ・ 患者・家族との信頼関係が大切 ・ 患者の理解を得ること ・ 午前中の外来時に担当患者が死亡していると連絡が入る。師長が外来を裁いてくれる。 ・ 医師は臨機応変に対応するのみ。自分で優先順位を。 ・ 決めて行動する。訪問看護や副主治医と上手く連携する。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々多職種と連携をとっていく。 ・ 訪問看護との連携が少し理解できた。 ・ 訪問看護Sと密な連携が大切 ・ 診療時間に訪問に出るため地域と密着しておくことが大切 ・ 在宅医療も地域により違うことが多く、時間調整のやり方にも違いを感じた。 ・ 施設間の情報共有。 ・ 職種間の情報共有。 ・ 夜間の看取り時の対応

